

# 東和便り



第31号 きのくに学力定着フォローアップ事業5号  
2016.11.30 東和中学校

## 第5回「きのくに学力フォローアップ事業」(2年数学 提案授業)!!

国は、本年度中に学習指導要領を改訂し（高等学校は来年度以降）、次年度から周知徹底、教科書検定・採択、先行実施、2020年から順次実施していくことになっています。

次期学習指導要領では、何を学ぶかに加え、主体的・対話的で深い学びの実現というアクティブラーニングの視点が盛り込まれます。



「アクティブ・ラーニング」という言葉をよく耳にしますが、決してグループ内での活発な討議や発表を指すものではありません。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点なのです。

見た目が「活発な学び」ではなくて、頭で考える「静かな学び」なのです。そのために、わからないことを放っておかないで、グループの仲間に訊ける環境を作ることが大切なのです。

本校では、このような方向性のもと、授業を『教える』から『学び取らせる』に、生徒の姿を受動的な姿勢から主体的な姿勢に変えるため「学び合いの授業づくり」に取り組んでいます。そして、「学び合いの授業づくり」の実践の確認、授業改善の指導のために、「きのくに学力定着フォローアップ事業」として本校元校長の丸山雅嗣先生がフォローアップアドバイザーとして教員の授業と生徒達の学ぶ姿を参観に来てくれています。

11月28日（月）3限 2年3組 「数学科」 授業者 山本 翔 先生  
授業のはじめには、手を挙げて、「先生、先生」と授業者に教えてもらおうとする生徒が何人もいましたが、授業者が、「わからなかったらグループの人に訊こう」と返すことで、生徒相互の「聴き合える関係」が構築され、「静かな学び」、「対話的・主体的な学び」が展開されていきました。



まずは独りで考えよう



わからなかったら訊こう



訊かれたら応えてね



訊かれるまでは教えない



「人間は、教えられるということになった途端に考えることを捨てる」と言われています。まずは独りで考えよう、わからなかったら訊こう。そのためのグループ学習なのです。